

目次

- 1面 『景観は住民の意識の反映』
『東京景観写真』
- 2-3面 『江戸開府400年、「江戸城から
東京を眺める開催』
『研修会「歩いてみよう！
新緑あふれる多摩ニュータウン』
- 4面 『会員の声』 / その他



第3号

発行
美しい東京をつくる都民の会
東京都生活文化局都市美担当気付
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
TEL. 03(5388)3091
FAX.03(5388)1327
編集 広報委員会

新事務局長挨拶

「景観は住民の意識の反映」

寺田 弘（調布市）

今年度4月から「美しい東京をつくる都民の会」の事務局長を拝命した寺田です。

私はかつて勤務した会社の転勤で愛知県名古屋市、滋賀県近江八幡市、茨城県石岡市などに住まい、それぞれの都市の景観活動に参加し、東京定住後は新宿区神楽坂で路地保全活動に励んでいます。そこで学んだことは「景観とは、その土地土地の住民の生活意識の反映」という極あたりまえのことでした。それだけに最近では特に、景観には住民の意識、いや日本人全般の意識が問われているという感じを持っています。

過日、本会運営委員会の勉強会で、戦前に「都市を美しくする」啓蒙活動に生涯をささげた椽内吉胤（とちないよしたね）（1888年～1945年）という人の存在を知りました。彼は「都市を美しくすることは市民のやみがたき表現だ」「市民の自覚によって土地の個性を守るべき」（『日本都市風景』筑摩叢書 1988年）として、市民の自覚を訴えていました。そのような都市美運動家の先駆者もいたのです。

私は少なくとも当会員ひとり一人は良き住まい手として、たとえ

ささやかでも身の周りの景観づくりに関心をもって欲しいものだと考えていますし、会自身も身の丈にあった活動を通して景観意識の高揚の場となるべきと考えています。たとえそれらがいかにささやかでも、その意識が土地土地の景観を保持、保全、改造する力になっていくのです。そのために一人でも多くの人と手を結び、学び、協同して行きたいと切に願っています。よろしく手を携えて行きましょう。

皆様の暖かいご理解とご支援をお願い致します。

東京景観写真

会員、一般の方から寄せられた写真を掲載しています



新宿区、神楽坂付近（撮影：松本泰生）



中央区、浜離宮より汐留地区の巨大ビル群を臨む。（撮影：寺田弘）

江戸開府400年、「江戸城から東京を眺める」、開催。

美しい東京をつくる都民の会の平成14年度の第二回研修会が、2003年3月29日に開催されました。テーマは「江戸城から東京を眺める」、旧江戸城本丸、現在の皇居東御苑を散策しました。そして、天守台から文字通り東京の風景を眺めた後、九段会館にて、竹内誠先生(江戸東京博物館館長)に「開府400年と江戸のころ」と題した講演を頂戴しました。

本研修会開催にあたっては、江戸開府400年記念事業の一環として千代田区にもご協力を頂きました。また、一般の方々にも多数参加を頂きました。

21世紀はココロの世紀、いまこそ、江戸のココロと知恵とエネルギーに学ばなければならない。例えば、江戸の花見は、今の職縁、つまり会社で行うものとは違い、地縁、地域で行うものだった。会社のような上下関係がありませんから、楽しいものでした。長屋の住人による芝居も行われました。金をかけるわけではなく、

開府400年と江戸のころ - 竹内誠先生講演

料理や飲み物はもちよりでした。また、ものがすべて筒抜けの構造の江戸の長屋で他人同士が暮らすのですから、「迷惑をかけます



が、お互いさま」という思いやりが生まれます。江戸の美意識を表す「いき」とは、他人に不快感を与えない生き方です。

私たちは他人を前提として生きている。自分の自主性を持つということは、他人を尊重することです。しかし、どんどんそれを失いつつある。江戸開府400年を機に、改めて、そういうことを考えてみてはいかがでしょうか。

【たけうち まこと】

1933年、東京都生まれ。文学博士。専門は江戸文化史、近世都市史。江戸東京博物館館長、東京学芸大名譽教授、立正大文学部教授。編著書に「教養の日本史」ほか多数。



江戸城の天守台。ひとつひとつの石が大きい！石と石の間に手を入れると、黒いスノのようなものが・・・解説の先生：「それは江戸城の天守閣の焼失してしまった元禄の振袖火事のときに生じたススだよ。」何と、江戸400年の歴史に直に触れていたのです。



当日は、千代田区四番町歴史民俗資料館学芸員の高木知己先生ほか、3人の先生に解説をお願いしました。



天守台から東京・丸の内方面を眺める。丸ビルを初め、高層ビルが目立つ。解説の先生：「丸の内は戦後、昭和40年頃までは全てのビルの最高高さが31mまでに制限されていて、天守台から見ると建物の大部分は木の陰に隠れて、それこそ江戸時代と変わらない広々とした風景が広がっていたんだ。だけど、その後の規制緩和によって、そうした風景は失われていったんだ」

「江戸城から東京を眺める」参加者の声

江戸城に立てたのは、ちょっとした感激でした。ノッポビルはもうたくさん。ノッポビルの景観の思いはみんな違うけど守る心は大事にしたいノッポビルにノッポビルに残ったのは江戸時代の人々の暮らし方が、なんと合理的であったかということ。昔には戻れなくても、振り返ってみて良いと思う所は元の姿に近い方向に進む勇気を持ちたい。ノッポビルの竹内先生のユーモアのあるお話の中に、今日本人に失われつつある豊かな心、先人の生き方から掘り起こすと共に、学びとらねばならないことを痛感。ノッポビルということばが大好きです。さばさばして、時には情緒的であったりして。ノッポビルではなく粋な建物を！

研修会「歩いてみよう！新緑あふれる多摩ニュータウン」

美しい東京をつくる都民の会の第3回総会終了後に、多摩ニュータウンを歩いて体験する研修会がおこなわれました。

会場のパルテノン多摩の会議室において、共催いただいた多摩市の市街地開発課の吉井課長のご挨拶を頂戴

し、続いて講師の成瀬恵宏氏から多摩ニュータウン計画の概要と歩くコースについてレクチャーを受けました。

その後、多摩市の住民の方も含めて総勢40名ほどが約3時間にわたり、ウォーキングを楽しみながら多摩ニュータウンの成り立ちを体験しました。



今回のウォーキングはパルテノン多摩会議室からスタートして、自然地形を生かして計画された地域や新住民と旧住民が織り合って生活圏を形成している地域、都市型の低層住宅群が雄大でシンボリックな眺望を形成している地域など、特徴的な事例を検証しながら歩きました。



多摩ニュータウンの概要

多摩ニュータウンは稲城市・多摩市・八王子市・町田市の4市に跨がり、新宿から調布までの約15kmという距離に匹敵する長さで、規模・環境・質などの点においても他に例を見ない都市開発がおこなわれました。

昭和46年(1971)に多摩市の諏訪・永山・愛宕地域から入居が始

まって早30年以上が経過しており、八王子市域や町田市域の開発は今も進行中です。

昨今では「新・山の手」と呼ばれたり、「金曜日の妻たちへ」や「平成狸合戦ぽんぽこ」などメディアにも取り上げられ、将来の高齢化も話題に上りつつあります。

ご講演頂いた成瀬恵宏氏は、1968年に日本住宅公団(現「都市基盤整備公団」)に入られたのち、多摩ニュータウン開発に約15年半の長きにわたって携わって来られました。その後、立川基地跡地再開発(2年半)・八王子みなみ野シティ開発(4年半)等にも従事し、1991年に株式会社都市設計工房を設立し、現在は多摩ニュータウン永山駅近くに事務所を構えられています。

会員の声

住民が守った広場 京王線千歳烏山駅前

千歳烏山駅前には、時には植木市や盆踊り、普段は幼児の遊び場になっている駅前広場だが、烏山小学校の跡地である。最初、高層建築物を建てる計画だったが、「緑の広場と公共施設」という声をあげた住民運動が展開され、現在のようになった。

その近くの寺町は、小京都ばりの寺院の並んだ町並みだが、またしてもそこに高さ百メートルに近い高層住宅の建設計画が、現在持ち上がっている。

(世田谷区 佐々 正)



際だつ「前衛的」な家屋

世田谷区の一部には農地が広がっている場所がある。たまたま友人宅訪問でそんな地区を発見した。そんな土地に高名な建築家が自宅を建てている。ガラス張りの3階建てで、屋上には木が植えられている。近くには神社があり、樹木も多いので環境に配慮したのだろう。

しかし普通の木造住宅に住む周囲の人々の目には、際だって「前衛的」なこの住宅が奇異なものに映るかもしれない。

(調布市 秋田 和子)



「ホタルの飼育を通して 良い環境作りを！」

新宿区のおとめやま公園でホタルの飼育に取り組んでいます。

活動を始めたのは今から3年前。区の事業が中止になったのがキッカケとなり、地域の有志で始めました。

とはいえ知識も経験も無い中、試行錯誤を繰り返しながら卵から幼虫、成虫へと私たちもホタルと共に歩んでいます。

いつの日かおとめやま公園に沢山のホタルが自然発生する日を夢見て…。

(新宿区 浅見美恵子)



シンポジウムのお知らせ

『新宿の風景 歌舞伎町 落合』

日時：平成15年11月8日(土)午後1時半～4時半

会場：新宿区牛込笹笥地域センター多目的ホール

(新宿区笹笥町15番地)

基調講演：『新宿の景観づくり』

講師：戸沼幸市氏 (早稲田大学教授)

パネル討論：『新宿の風景 歌舞伎町 落合』

コーディネータ：進士五十八(当会会長 東京農業大学学長)

パネリスト：金子博氏(新宿区建築課長)

長岡弘志氏(株式会社サザンカンパニー)

福武洋之氏・李永桓氏(早稲田大学大学院)

榊なほみ氏(本会会員)

参加申し込みはファックス03(5388)1327、東京都生活文化局都市美担当気付。10月24日(金)締め切り。

会員を募集します

都民の会

「美しい東京をつくる都民の会」では広く会員を募集しています。都民の会は、環境や景観、まちづくりなどを一緒に考え、美しい東京づくりを進めていこうというもので、誰でも参加できます。

年会費は、学生千円、一般の方が三千元、法人・各種団体は一万円。お問い合わせは電話03(5388)3091、東京都生活文化局都市美担当気付。